

## まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 11 月 13 日（火） 15：42～17：46

場 所：杵臼自治会館

出席者：6 人

1. 開会
2. 町長挨拶  
※資料確認
3. 説明事項  
(1) 栗山町第 6 次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）  
※質疑応答
4. 懇談  
(1) 栗山町が直面する主な課題について（資料③）  
※自由懇談
5. 閉会

### 《懇談会内容》

質疑：馬追橋の架け替えでアンダーパスはなくなるのか。

町長：アンダーパスはそのまま。架け替えにあたり橋の高さが以前よりも高くなってしまいうこと  
から小林酒造周辺の景観への影響を懸念し、錦地区の方へ延伸を要望し、大きな迂回は出来  
なかったものの現状よりも 5 メートルほど小林酒造から遠ざけることで決定した。

要望：ソーラーパネル設置施設の草刈りがされておらず景観が損なわれる。どうにかならないか。

産業振興課：農地を転用する事例が多く、設置会社が賃貸で土地を借りているケースが多いと聞  
いている。草刈りや土地の管理は地主が委託を受けているケースが多いと聞いている。農地  
を転用しているため農業担当としての指導は難しい。

町長：あまりにひどい場合は、環境の面から町としても指導はする。

産業振興課：ご質問いただいた案件は以前に地主へお願いに行ったことがあり、管理は地主がす  
ることになっていると確認している。地主も管理しなければいけないことは心得ていたため、  
その後しつこくお願いはしていなかった。変化がなければ再度対応する。

意見：目標人口 12,000 人は達成できるものなのか単純に疑問である。自分の会社でも 2 年  
～3 年努めると岩見沢や恵庭、北広島などへ転出してしまいう人が多く、なぜなのか疑問に思  
っている。

町長：国の推計ではもっと減ることが予想されており、少しでもそれを抑えるためにあえて高い  
目標を設定した。特に若者世代の定住を促進するため専門の部署も設けた。

副町長：若者定住推進室設立時に住民アンケート調査を実施したところ、家賃の高さが転出の大  
きな要因であるとわかったため、町外からの転入者向けに家賃助成制度を創設した。3 年間  
で 20 件ほどが利用、住宅の新築やリフォーム助成制度を含めると 40 件ほどが利用してい  
る。人口の実数を見ると目標人口には届かず推計通りとなってしまうが、生産年齢人

口は全体に比べ減少率を抑えることができた。

質疑：町外からの労働者が6,500人とのことだが、その逆はどれくらいいるのか。若い人たちにとっては家賃や水道代など日々かかるお金が一番気になるところだと思う。

町長：曙団地の建て替えをしたが、居住者50戸に対し70戸ほどを用意し20戸には工業団地など若い人たちが入れるように考えた。公営住宅には所得など入居の条件があるため、若者が応募すらできないという問題もある。本町にはダムがあるため水の供給は安定しているものの、若い方は安心よりも安さをとるかもしれない。奨学金の返済が負担となる若者も多いため、後期計画には支援制度も盛り込んでいる。

要望：若い人たちを雇うためにもっと工業団地などと連携し大々的にやってほしい。

町長：栗山商工会議所と一緒に名古屋で開催された企業誘致イベントに参加してきた。白老、当別と合同で誘致イベントにも参加している。

意見：地域おこし協力隊も道外から移住し起業までしており、ずっと栗山に住んでいる自分たちが何もしないのは恥ずかしい。

町長：駅前通りに「カフェバルくりとくら」がオープンする。ふるさと納税型クラウドファンディングで資金を集めた。若い人が来て起業できる環境をつくっていききたい。

意見：5点の主な課題は全てを栗山だけでやる必要はないと思う。近隣のまちにある施設は上手く活用することが望ましい。地域の活性という面もあるが、財政面を考慮すると仕方のないこと。病院は夕張や由仁、スキー場は長沼や夕張と共用可能。

町長：病院は4町連携の協議もあるが話は全然進まない。政治的なこともあり困難と思う。

意見：介護福祉学校と栗山高校の連携も視野に、現在の6,000万円の負担で維持し続けられれば良いと思う。

町長：介護学校と栗山高校の連携や専修学校化など検討したい。

要望：災害時の情報伝達は今回の地震時町職員が大変そうだった。コミュニティFMは平成34年度開設予定だが、その間も災害の恐れがあり、職員に無理をさせ過ぎないような対策をお願いしたい。また、高齢者や独居世帯などだけでも優先的に情報が伝わる仕組みづくりをお願いしたい。

町長：先の地震時の対応など、町も大変反省した。災害対策に注力することはもちろんだが、役場だけでは限界があるため、町内会・自治会など地域との連携体制を構築していきたい。

質疑：日本電工が湯地に六価クロムを投棄したようだが収束したのか。

建設課：雨が降ると雨水に溶け出し下流の河川へ流れ出ていたが、現在では河川に流れ出る前に中和するための装置を設置している。